# ~豊かな学びと育ちを支えるために~

子どもは学習や読書を進めていく中で、「なるほど!わかった!」、「どうして?なぜ?」、「もっと詳しく知りたい!」など、興味・関心を高め、深い学びに向かいます。

そこで、家庭生活の中、家庭学習の前後に、子どもの思いや考え、豊かな発想を引き出すような問いかけを行い、大人は傾聴と共感を心がけ、よい聞き手になり、子どもの「わかる学力」を高めるため、子どもとの対話を始めましょう。

# ◆◆子どもの話に耳を傾けましょう◆◆

- o「それからどうしたの?」「それでどうなったの?」
- ・子どもの話に大人が興味・関心をもちながら、話の続きを楽しむように傾聴する。 ○「あなたはどう思う?」「あなたなら、どうする?」
- ・判断力を育成するためには、子どもに自分の意見や結論を聞いてみる。
- ○「どうして?」「なぜ?」
- ・自分の考えの根拠をはっきりさせることが大切です。自分の思いや考えの理由を聞くように心がける。

口子どもの今できていること、家庭や学校での<mark>具体的な行動を認めてほめる</mark>ことを心がける。 口子どもの努力の過程や結果を<mark>認め励ます言葉がけ</mark>をする。

加古川市内の学校では、「わかる学力」を伸ばすために

# 協同的探究学習

に基づく授業実践に取り組んでいます

◎自分の多様な考えや解法を表現する

◎一人一人の考えを、クラスで共有・関連づける

◎学習内容の質を深める

協同的探究学習は 「わかる学力」 「自己肯定感」 を育みます

# ◇加古川市学力向上推進委員会より◇

子どもが一番安心できる家庭で、安定した生活リズムで、毎日学習に取り組むことで、学習意欲は向上し、家庭学習の習慣が身につきます。子どもの発達段階やそれぞれの家庭によって、子どもに対して取り組むべきことは異なるでしょう。

そこで、子どもが歩んできた道のりや成長の過程を振り返ることで、これからの子どもの成長を 見通しながら、家庭が果たすべきことを考えるために、このリーフレットを活用いただければ幸い です。



【監修】加古川市学力向上推進委員会 顧問 東京大学大学院教育学研究科 藤村 宣之 教授

(発行年月日 平成31年4月)

# 家庭でチャレンジ

# FEED TO SENTE TO SENT

## ~豊かな学びと育ちを支えるために~

これからの時代に求められる資質・能力を育成するためには、学校と家庭、地域が連携・協力して取り組むことが必要です。

繰り返し学習しながら身につける「**できる学力**」と考える力の基になる「**わかる学力」**を両輪に、バランスの取れた学力の向上と学びに向かう力の育成を図ることが大切です。



# **わかる学**力って何



子どもは、今までに習得した知識や技能、様々な経験を関連づけて考え、多様な意見や解法を見いだします。 思考の過程を自分の言葉で表現するとともに、他者と協力しながら課題解決に取り組み、より本質的な深い学 びへ探究していく力を「わかる学力」と言います。「わかる学力」は、これからの時代に必要な力です。

学校では、漢字や計算、基礎的な知識や技能など、繰り返し学習しながら習得する「できる学力」向上と児童生徒の多様な考えをつなげ、理解を深める「わかる学力」向上を両輪に、授業づくりに取り組んでいます。



# 庭で **わかる学力**

を伸ばすために大切にしてほしいことは、

ご家庭での「生活」「学習」「読書」の3つの場面における、

子どもと家族の が話 と、家族の温かい 変えです。



# 生活

お手伝いや家事の分担、適度な運動や適切な睡眠など、メリハリのある生活は、子どもの心をたくましくし、気力を高めます。



家族の

# 学習

対話。支え

# 読書

大人に見守られる中で、子どもは 学習環境を整え、毎日計画的に学 習を進め、自ら学びに向かう力が 身についていきます。 親子で一緒に読書をしたり、内容 等について語り合ったりすること は、子どもの感性や豊かな心を育 みます。

# 加古川市教育委員会



◎自分の計画や約束など、家族で相談しながら子ども自 身に決めさせ、最後までやり遂げさせる。

Point ©家族で一緒に食事・運動を行ったり、家族で団らんし たりする中で、学校や友だちのことを話題にして会話 をする。

#### ≪対話のきっかけ≫

- 〇時間、約束をきちんと守れたね!
- 〇何ができなかったのかな? 次はどうしたらいいかな?
- 〇最近どう? 学校で楽しいことあった?
- ○困ったことやつらいことがあったら、いつでも言ってね。



#### ≪家庭でチャレンジ≫

- ロテレビやゲーム、パソコンなどの使用時間を決めて行わせる。
- 口失敗したり、うまくいかなかったりしたときは振り返らせ、次にどうすればう まくいくのか、子ども自身に考えさせる。
- 口家庭では、子どもが自ら取り組む姿を見守り、失敗を責めない。
- □1日のスタートを、朝食をしっかり食べることから始めさせる。
- ○計画的に時間を使い、メリハリのある生活を送ることで、集中力や気力が 高まり、学びに向かう力が向上し、学習内容の定着と自らよく考えてやり ぬく力が育成されます。
- ○栄養バランスの取れた食事、適度な運動、適切な睡眠時間の確保が大切で す。元気で丈夫な心と体をつくり、心身ともに落ち着いて学習に取り組む ことで、学力向上につながります。



家族の



- Q. 家族の会話、子どもの話を聞くと、
- A. 「会話をする」「話を聞いてもらえる」=「心の安定」 「心の安定」と家族の支えや励ましが学習意欲につながり、高い学力に つながっていきます。

○これまでの全国学力・学習状況調査を分析した結果において◎

ご家庭での「生活」・「学習」・「読書」の3つの場面で、計画的・継続的にバランスよく 過ごしている子どもは、全国学力・学習状況調査B問題の平均正答率が高いことが確認されています。

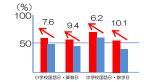
- ◆平成30年度全国学力・学習状況調査の平均正答率と児童生徒質問紙のクロス集計のグラフ◆
  - ・赤…「している、どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のB問題の平均正答率を表しています。 ・青…「あまりしていない、全くしていない」と回答した児童生徒のB問題の平均正答率を表しています。
- ○家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事に ついて話をしますか

○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



6.2 5.9

100



○学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

- ・赤…「2時間以上」「1時間以上から2時間未満」「30分以上から1時間未満」と回答した児童生徒のB問題の平 均正答率を表しています。
- ··「30分より少ない」「10分より少ない」「全くしない」と回答した児童生徒のB問題の平均正答率を表し ています。

◎子どもが自ら計画的に学習に向かうよ う、ご家庭で見守り、励まし、一緒に 読書をするなど、家族で一緒に過ごす 時間を大切にしてください。





◎与えられた課題をこなす学習から、自分で目標を決め て取り組む学習へと発展できるよう、学校と協力して、 Point 自ら学びに向かう力を身につけさせる。

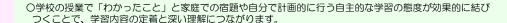


#### ≪対話のきっかけ≫

○今日はどのようなことを勉強してきたの? ○なぜ、そのような考え、答えになったの? ○その考え方いいね! よく考えているね!



- 口習い事や部活動のある日など、スケジュールに合わせて自分で計画を立て、学 習に向かわせる。
- 口学校や友だちのこと、授業のことを話題にして、子どもと会話しながら、学習 に向かわせる。





◎本や図鑑、新聞などを手に取り、興味・関心や感動の 幅を広げ、自分の生き方や考え方を深めるなど、読書 習慣や内容を深く読み取る力を身につけさせる。

24

0.5

## ≪対話のきっかけ≫

- ○その本はどのような話なの? どの場面が気になった?
- 〇最近のお薦めの本は何? なぜ、その本がお薦めなの?
- 〇最近のニュースや新聞の話題で、気になったことはある?



## ≪家庭でチャレンジ≫

- 口手に取りやすい場所に、本や図鑑、新聞などを置き、すぐに読むことができる 環境を整える。
- 口どのような本や話題に興味・関心をもっているのかを見守り、読む前と読み終 わった後に語り合い、感想や思ったことを子どもと互いに共有する。
- 〇本や図鑑、新聞などに親しませ、文字を読み、内容を深く考える機会を多く与えることで、学力向上 につながります。



